



【第9号】令和7年8月発行 年2回発行(8月、1月)

- 【1面】・令和7年度自衛隊合同企業説明会
- 【2面】・退職自衛官の声
・人材を求める地域の窓口「札幌常駐組」
- 【3面】・即応予備自衛官雇用企業の声
・予備自衛官等制度内容
- 【4面】・援護広告

【お問い合わせ先】

退職自衛官の雇用に関するお問い合わせ … 援護課 011-631-5473
予備自衛官に関するお問い合わせ … 予備自衛官課 011-631-5474

令和7年度 自衛隊合同企業説明会

～セカンドキャリアへの挑戦～

参加隊員は、希望する隊員を激励した。7師団副師団長がそれぞれ視察し、現状を把握するとともに、参加隊員を激励した。第7師団副師団長がそれぞれ視察し、現状を把握するとともに、参加隊員を激励した。

自衛隊札幌地方協力本部(本部長 栗田昌彦1等陸佐)は、令和7年7月14日(月)札幌コンベンションセンターにおいて、令和7年度自衛隊合同企業説明会を実施した。本説明会は、自衛隊援護協会の主催により、雇用企業が、令和8年9月までの退職予定隊員を対象に企業説明及び質疑応答を行い、隊員の具体的な再就職準備を円滑にさせることを目的として実施しているものである。今年度は、昨年度までの合同企業説明会の対象であった任期満了予定隊員82名に加え、若年定年

企業説明会に参加できない企業パンフレットの情報提供等により、隊員のニーズに対応するとともに、退職予定隊員の予備自衛官等の募集につなげるため、広報コーナーを設置し、参加隊員及び企業に対して本制度の理解を促進した。

さらに、当日は、参加隊員の直接の上司である中隊長等が参加し、隊員への指導に当たった。また、第11旅団長、北部方面総監部幕僚副長(行政)、第7師団副師団長がそれぞれ視察し、現状を把握するとともに、参加隊員を激励した。



説明会会場



企業説明



企業説明



企業説明



質疑応答



オンライン面談



報道対応

る企業ブースを訪問し、熱心に企業の説明を聞き、積極的に質問して、再就職に対する不安を払拭していた。終了後、参加隊員からは、「企業から具体的な内容を聞くことができ参考となった」「自身のキャリアプランの方向性を定めるいい機会となった」等、再就職に向けた前向きな感想のほか、参加企業からは、「参加隊員の就職に対する熱意を強く感じた」「会社での退職自衛官の勤務状況を踏まえ継続的に雇用したい」という声が聞かれた。本説明会を機に退職予定隊員の再就職活動が本格的に始動する。

即戦力! 国防を支えた力を、企業を支える力に。

自衛隊は、任務の性格上から精強性を維持する必要があります。そのため、大半の自衛官は「若年定年制」では50代半ばで「任期制」では主に20代で退職します。彼らは働き盛りであり、階級に応じた教育と部隊勤務により社会人として必要な能力を身につけています。その資質と能力は、いずれの分野でも企業様のお力になれます。



お問い合わせお待ちしております! 援護課011-631-5473

自衛隊札幌地方協力本部とは

石狩・空知(南部)・後志・胆振・日高の5つの振興局において64市町村を管轄しており、地方自治体や地域の皆様との窓口となる組織です。自衛官の募集・採用業務、退職予定自衛官の再就職支援、予備自衛官に関する業務、自治体等との連絡調整、自衛隊の広報を主な業務として行っております。

札幌地本<再就職支援・予備自衛官情報>広報紙

グリーン フィールド

「Green Field」

次号は 令和8年1月発行

「予備自衛官の活躍」「退職自衛官の声」「予備自衛官の声」を掲載予定です。

お楽しみに!

グリーン フィールド「Green Field」は札幌地本ホームページでご覧になれます。



- Homepage:
- X:
- Facebook:
- Instagram:

弊社は、お客様の信頼を運んで50年。当社は変化し続ける社会において変化をチャンスと捉え、新たな価値観を創り続けてまいりました。それは、従業員ひとりひとりがお客様に喜んでもらえるようにと心から寄り添い、誠実に向き合ってきた歴史でもありません。次の50年、引越のその先を創造し、変化を続けるために、常に新しい視点と領域を超えた進化を遂げます。その一つとして「即応予備

自衛官制度」や「予備自衛官制度」の新規導入をいたしました。弊社の企業理念は「社会的責任を果たし、社員の幸せを求め、地域のために何ができるのか、必要とされていることは何なのかを常に模索しています。自衛隊との連携を強化する上でも、制度の導入は、必要不可欠であると考えます。

また、訓練出頭等で配慮していることは、繁忙期と閑散期で出頭日数の強弱を決め、あくまでも本人意思を尊重して出頭させています。特別休暇(即自30日・予備自5日)を付与することで個人の公休や有休を使用しないようにしています。制度導入から2年目を迎える中で、社員全員で気持ちよく送り出せるように理解を進めています。

最後に、弊社に勤める即応予備自衛官に今後求めることは、各自が体力・気力の維持向上に努めて有事の際に即応できるように積み重ねてもらいたいと思っています。道内で今年度新たに2名の即応予備自衛官を送り出す計画をしています。現役時代で培った「俺を見よ!俺に続け!」を少しでも体現できるように訓練に励んでもらいたいと思います。



【写真】サカイ引越センター



【写真】即応予備自衛官 渡邊 章充 陸士長



【写真】即応予備自衛官 荒川 泰広 陸士長

予備自衛官等制度とは、普段は民間人としてそれぞれの職業に従事しつつ、年間で定められた日数の訓練に参加し、有事の際には召集され自衛官となり、防衛出動や災害派遣などの任務に就く制度です。

この制度を円滑に運営するためには、予備自衛官等を雇用する企業のご理解と協力が不可欠であり、その雇用企業を支えるための各種制度があります。

1つ目は、「即応予備自衛官雇用企業給付金」です。この制度は、即応予備自衛官が訓練招集や災害等招集などについても出頭できる環境を整えていただくために、雇用企業に給付金が支払われる制度です。支給要件を満たしますと、即応予備自衛官1人に対して月額42,500円(年額510,000円)が雇用企業に支払われます。

2つ目は「雇用企業協力確保給

付金」です。こちらは、予備自衛官または即応予備自衛官が、防衛出動・国民保護等派遣、災害派遣等に招集された場合や、訓練を含む招集中において公務上の負傷又は疾病により平素の勤務先を離れた場合に給付金が支払われる制度です。支給要件を満たしますと、平素の勤務先に従事できなかった日数分、月額34,000円が雇用企業に支払われます。

また、これらの給付金制度の他に、「予備自衛官等協力事業所表示制度」があり、事業所が予備自衛官等の雇用を通じ、社会貢献を果たしていることを防衛省として認定・称揚することで制度に対する社会的な関心・理解を深め、同制度の円滑な運営に資することを目的とした制度です。認定には地本長認定協力事業所と大臣認定協力事業所の2種類があり、どちらも雇用企業の希望により防衛省ホームページに企業名が掲載されるほか、認定証の盾が贈られます。

防衛省・自衛隊では、この他にも「即応予備自衛官育成協力企業給付金」や「雇用主に対する情報提供制度」など、幅広く企業の皆様をサポートできる体制を整えており、これら各種制度により雇用企業の負担を軽減し、予備自衛官等と雇用企業がより良い関係を構築できるよう目指しています。

予備自衛官等 制度内容

給付金、協力事業所表示制度等

また、これらの給付金制度の他に、「予備自衛官等協力事業所表示制度」があり、事業所が予備自衛官等の雇用を通じ、社会貢献を果たしていることを防衛省として認定・称揚することで制度に対する社会的な関心・理解を深め、同制度の円滑な運営に資することを目的とした制度です。認定には地本長認定協力事業所と大臣認定協力事業所の2種類があり、どちらも雇用企業の希望により防衛省ホームページに企業名が掲載されるほか、認定証の盾が贈られます。

退職自衛官 の声

株式会社 北海電工 清水 陸 様

最終勤務部隊：第2航空団整備補給群武器小隊
退職時階級：空士長



私は、令和7年3月に第2航空団整備補給群武器小隊を退職し、現在、(株)北海電工苫小牧支店において電柱や電線などの配電設備の工事を行う電工として勤務しております。

電工を志した理由は、2つあります。1つは、国民のライフラインを支える業務につきたいと考えたためと、もう1つは、自分の長

所であるコミュニケーション能力や協調性の高さがチームで行う配電業務で活かせると考えたためです。

自分は将来何をしたいか、何ができるのかを考えたとき、学生時代に「第二種電気工事士」の資格を取得したことを思い出しました。そして、自衛隊で災害時にライフラインの復興に携わる経験をした私は、次は電気という国民にとって欠かすことのできないものを守っていきたくと思いました。

応募前に配電作業の現場を見学する機会があり、チーム内で常にコミュニケーションを図り、電柱上で作業を行う仲間のために、地上にいる仲間が必要な工具や材料等を準備して渡すなど常に協力しあって作業を行う姿を目にし、自分の長所に加えて、自衛隊員として培った「忠誠・奉仕・礼節」を活かして国民のライフラインを守ることができると考えました。

入社後2か月間の研修期間では、同期入社した仲間達と切磋琢磨して、電工としての知識と技術を学びました。現在も配電業務の現場で多くのことを学ぶ毎日ですが、諸先輩方の背中を見て電工として一日でも早く職場の戦力となり、北海道のライフラインである電力インフラを支えていきたいです。

ここまでに至ったのは私のために

日々奔走してくれた援護関係者の方々のおかげと深く感謝しております。引き続き、自衛隊OBとしての自覚と誇りをもって更なる夢を追いかけて、微力ながらも地域に貢献していく所存です。

最後になりますが、今後更なる援護組織の充実発展と、本誌をお読み頂いている方々の益々のご多幸を祈念致します。



退職自衛官の雇用をどうぞよろしくお願い致します。

上司からのメッセージ

株式会社 北海電工

苫小牧支店配電グループリーダー

蛇谷 将 様



清水さんは、職場では快活で元気に挨拶し、現場ではしっかりとメモを取るなど積極的な姿勢がみられます。自衛隊で培ったチームワークやコミュニケーション能力は配電業務を行う上で欠かすことのできないものとなりますので、清水さんの強みを活かして今後も成長してくれることを期待しております。これからも彼の活躍を応援しています。

人材を求める 地域の窓口



札幌常驻組

自衛隊札幌地方協力本部札幌地域援護センター札幌常駐組は、札幌市に所在する札幌駐屯地、苗穂分屯地の隊員を担当し、20代を中心とした自衛隊新卒者及び50代の定年退職者の再就職の援助を行っています。

これからの隊員にとって開かれた相談窓口として、常駐組3名は力を合わせ取り組んでまいります。

退職自衛官の雇用をどうぞよろしくお問い合わせ致します。

札幌市中央区南26条西10丁目
陸上自衛隊札幌駐屯地内
011-5533-2256
(内線4592・3874)

